

Eureka X

六年制通信 No.17 令和4年9月2日(金)号

心の持ち方一つ

始業式でも繰り返しましたが、世の中は努力以上のことは起こらない、君たちはこのことを忘れずに勉強してほしいと思います。また、努力は常に報われると、そんな都合の良い考え方はしてはいけないと思います。私たちにできることは努力を続けることだけです。その結果、「成功」が待っているのかどうかは神様の差配だと思います。将棋の羽生善治永世七冠はこう言っています。「何かに挑戦すれば確実に報われるのであれば誰でも必ず挑戦するだろう。報われないかもしれないところで、同じ情熱、気力、モチベーションを持って継続しているのは非常に大変なことであり、私はそれこそが本能だと思っている」と。こういうのは本気で努力を続けた人にしか実感できないことだと思います。そして羽生さんでさえ、報われないかもしれない努力を続けるために苦しんでいるのがよくわかります。私たちが努力の継続をしんどく感じて当然かもしれないですね。でも、それでも、続けていきましょう。

「努力」より前に「成功」が来るのは辞書だけだと誰かが言っていましたが、その通りだと思います。実生活では努力なしに何の成功もありません。しかし、それはそうなのですが、同時に「成功」とは何を指して言うのだろうと頭を捻ってしまいます。「成功」の定義は人によって違うように思うのですが、それなら、君たちにとって「成功」とは何ですか。考えたことがありますか。

私は、努力を継続して行うことは大切だということ、これには何の疑いも持っていません。継続しなければ理解できないことや身につかないことがたくさんあることを知っているからです。しかし、何をもって成功かと聞かれると、途端にあやふやになります。私を鍛えて公に尽くすことが少しでも出来たらそれで人生は成功だ、とも言えますが、具体的に問われるとわからなくなってしまいます。尊敬する秋山好古は「人生に一事を成せばそれでよい」と言っています。なるほどと思いますが、その一事が人によって違うわけですね。ですから、あまり努力の「結果」のことは考えないようにしています。その結果に満足か物足りなさを感じるかは自分の心の持ち方にかかっていると思うからです。初めは物足りなく感じたとしても、時間をかけて満足のいくように変えていくことができると思うのです。自分の心を、です。よく天職を持ち得るかどうかが成功の目安だと言われます。今の仕事が自分の天職だと言えるのなら、それは幸せだと思います。しかし、初めから天職に就いたと思える人は少ないのではないかと思います。私の勘ですけどね。とにかく今は、就いた職業(どのような経路であれ)を天職にしてしまうことの方がよほど大切だと、そう思っています。

それには心の持ち方を自分でコントロールできることが大切ですね。前にも言いましたが、同じ景色を見て、例えば窓から雨上がりの風景を見ると、晴れた青空を見るか、ぬかるんだ泥だらけの地面を見るか、同じ見るなら青空を見たいですね。これ、もう少し言いますと、ぬかるんだ地面を見る人は空が晴れて美しいことを知りません。しかし、青空を見る人は、下を見ればぬかるんだ汚い地面があることを知っています。この差が、実は大きいのではないかと、私は考えています。

同じことを見たり聞いたりしても、どう考えるかは個人に任せられます。「万人のごとく知己のごとく信じなくてはならない」とは小林秀雄の言葉ですが、それを個性と呼んでよいなら、個性の力が自分に与える影響は本当に大きいですね。心の持ち方、ものの考え方一つで何もかも変わるのですから。

先日読んだ藤原正彦さんの本に興味深い話がありました。ある真言宗のお寺に「これから、これまでを決める」と書いてあったそうです。何気なく読んでしばらく歩いてから、あれ!?と思ったというのですね。これ、逆じゃないかと。原因と結果という因果律を重んじるなら、欧米型世界観のように「これまでが、これからを決める」でなくてはならないはず。これは理屈がよくわかります。これまでの人生の歩みがこれからの人生をも規定する、はずですからね。しかし、これからの生き方が、これまでの人生を肯定することになるか否定することになるか、それを決めることもある、そういう考え方をしているわけです。これからの人生をどう歩むかがこれまでの人生への見方を変えるのではないかと、そう言われると、なるほど。しかしこれは非常に日本的な発想ですね。西洋人の理屈からは決して出てこないでしょう。なるほど、こんな考え方があるのかと、いろんな考え方に触れるといいですね。若い君たちは特に。

今週のおすすめ

・中山七里 『棘の家』 (角川書店)

勉強すると痩せるんですね、人間って。私、5キロ痩せました。前にユリイカに書きましたが、我が恩師の住まわれる白玉楼の前で正座させられて叱られるのが怖くて(というか、そういう想像をしてしまったがゆえに)この夏はかなり真面目に勉強していたのですが、もちろん息抜きも必要で楽しみの読書もしていました。

中学教師の娘がいじめを苦しめ飛び降り自殺を図ります。自分のクラスにあるいじめ疑惑にも消極的なこの父親はどうするのか。自分の娘を助けられるのか。娘の兄と母は弱腰な父を責め、家庭は崩壊していくのですが、そんなとき加害者のありとあらゆる情報がネットに晒されます。そして社会の悪意が加害生徒に向かい、やがてその生徒は…。いったい自分たちは被害者なのか加害者なのか。

現代の風潮がよく書けていると思います。ここ10年くらいでしょうか。世の中、と言いますか、日本の社会では100か0かしかないかのごとき論調が非常に多くなったと思います。私の感想ですけどね。そして100か0か、白か黒か、すぐにそう結論づけたがるのは幼稚な証拠だと私は思います。社会が子ども化しているようですね。

BGMは オリビア・ニュートン・ジョン の *そよ風の誘惑* でした…。